

船橋市国際交流協会主催・船橋市共催 災害時の外国人支援サポーター養成講座を 受講しました

井澤修美(事務局長)

船橋市は災害時の外国人支援に関してとても先進的な取り組みを行っています。以前から「災害時の外国人支援サポーター養成講座」を開催していましたが、今回オンライン講座が可能ということもありN I A事務局も参加。20人ほどの受講者の中には、浦安市、千葉市、柏市などの各国際交流協会からの参加者もいました。やはりどこの市でもその必要性を感じているのだと思いました。

講師は多文化共生リソースセンター東海の代表理事である土井佳彦氏。これまで熊本地震をはじめ数々の被災現場で外国人の支援活動を実践してきた方です。

7月31日(土)と8月21日(土)の2回にわたり講義とグループワークによる講座が開催されました。

第1回目のテーマは、**災害時に外国人が直面する課題とボランティアに求められる役割**です。災害時に日本語がよくわからない外国人は「要配慮者」となります。自然災害のほとんどない国から来日した人にとっては大地震などが起きればパニックに。ましてや避難所生活などということになれば、ことばの壁や習慣の違いから多くの不安を抱えることは容易に推察できます。自治体における被災外国人の対応や「災害時多言語支援センター」の役割について学ぶとともに、実際に役立つ多言語情報を提供している自治体等のサイトやアプリなども紹介していただきました。

第2回目のテーマは、**災害時の外国人への情報提供と「やさしい日本語」**です。被災外国人に対してそれぞれの母語で情報を提供することができればベストですが、必要なすべての言語に対応することはまず不可能です。そこで活躍するのが「やさしい日本語」。多様な国々の人にとっては「英語」よりもむしろ「やさしい日本語」の方が理解できるというデータもあります。

「やさしい日本語」には100%の正解はありません。少しでも多くの人に伝えることを目指し、時には身振り手振り、絵、写真なども活用し、一番伝えたいことを簡潔に伝えます。小グループに分かれて実際に言葉や文章を「やさしい日本語」にする練習をしてみました。これは訓練をしないとなかなか難しいということを改めて認識しました。

今回の研修を受講し、平常時から行政や社会福祉協議会などの関係機関と連携を取り、災害に備えた役割分担をしっかりと決めておくことが必要であることを痛感しました。各機関が共通認識を持ち、互いに協力できるようなシステムの構築が求められます。そして、習志野市国際交流協会として何ができるのか、ぜひ皆さんにも考えていただきたいと思います。

第1回 災害時に外国人が直面する課題とボランティアに求められる役割

◆災害時に外国人が直面する困難とその背景

- 日本で起きる災害に関して知識が少ない。
 - ・ どうして地震が起きるのか知らない。
 - ・ 地震が起きる前に何をしたらいいのかわからない。
 - ・ 地震が起きた後、どうしたらいいのかわからない。
- 情報が少ない。
 - ・ どこから情報が得られるのかを知らない。
 - ・ 流れている情報が理解できない。
 - ・ 正確な情報とデマ・うわさの判断ができない。
- つながりが少ない。
 - ・ 近くに信頼できる人がいない。
 - ・ 地域のことを知らない。
 - ・ どのコミュニティにも参加していない。

◆事例等

- 1995年 阪神・淡路大震災
兵庫県内被災地人口 3,598,982人(内外国人 80,857人、人口比率2.25%)
人的被害(死亡者数) 5,431人(内外国人 174人、比率3.19%)

- 2007年 新潟中越津沖地震

柏崎災害多言語支援センターの設置(外国人に特化した支援センター)

- 2009年

自治体国際化協会『災害時多言語支援センター設置運営マニュアル』を発行

- 2016年 熊本地震

Q.実際の災害発生時の対応として外国人はどのようなことを希望するか？

- ・ 母国語のマニュアルを配布してほしい。
- ・ 避難誘導などわかる言語でしてほしい
- ・ 交通・飛行機の情報など説明できる案内所を設置してほしい
- ・ 避難してどうすればよいかの行動を示したパンフレット等がほしい
- ・ テレビ等でも英語等で表示してほしい

- 2017年

災害時外国人支援情報コーディネーター制度に関する検討会(総務省)

↓

避難所に寄せられた情報を整理し、外国人被災者からの各種ニーズを把握して自治体職員等へ伝達することが主な役割

◆災害時多言語支援センターとは

【機能】被災地において関係機関が連携しながら外国人被災者のニーズに対応して、多言語による災害情報の発信や避難所巡回を行う際の支援拠点。

【運営方針】多言語による災害情報の提供を中心とし、日常の生活支援相談とは一線を引く。

【役割】①行政機関が発信する災害情報を、多言語に翻訳して外国人に届ける。

②避難所を巡回して、外国人の状況を把握。ニーズを選別し、必要な情報を多言語化して外国人に届ける。

◆自治体における被災外国人対応

○災害時外国人支援計画の策定

他市マニュアル等を参考に

○実践的な訓練の継続実施

平時の訓練でできないことは非常時にできない

○関連団体等とのネットワーキングと役割分担

行政、国際交流協会、多文化共生マネージャー、NPO、社会福祉協議会などの連携が必要

○情報発信及び各種手続き等の多言語対応

間違った情報を流さない

被災証明書、罹災証明書などは予め翻訳しておく

○外国人対応が可能な人材育成

自治体職員の継続的な育成

実際に翻訳できる人が何人いるのか？どのくらいのレベルなのか？

◆防災に役立つ多言語情報の提供例

○VoiceTra  多言語音声翻訳アプリ 再翻訳機能がついている

○SenTIA (仙台市) 多言語防災ビデオ「地震」その時どうする？(12言語)

○WetherJAPAN 多言語対応天気予報アプリ

○多言語の防災情報 (滋賀県国際協会・8言語対応)

○多文化防災ガイド (愛知県)

○Safety tips 外国人旅行者にもわかりやすく災害情報を通知する無料アプリ

○災害時多言語情報 (自治体国際化協会)

○外国人住民のための避難生活ガイドブック (静岡県)

○災害時の多言語支援のための手引き2018 (自治体国際化協会)

第2回 災害時の外国人への情報提供と「やさしい日本語」

◆「やさしい日本語」とは？

相手にわかりやすい日本語

- ・基準はあくまで情報の受け手にある
- ・完全に理解できるとは限らない
- ・難しい単語をひらがなにするだけではわからない
×かさんのけっかいにごちゅういください。

◆「やさしい日本語」にするための12の規則

- (1) 難しいことばを避け、簡単な語を使う。
- (2) 一文を短くして分の構造を簡単にする。文は分かち書きにしてことばのまとまりを認識しやすくする。
- (3) 災害時によく使われることば、知っておいた方がよいと思われることばはそのまま使う。
- (4) カタカナ・外来語はなるべく使わない。
- (5) ローマ字は使わない。
- (6) 擬態語や擬音語は使わない。
- (7) 使用する漢字や漢字の使用量に注意する。すべての漢字にルビ（ふりがな）を振る。
- (8) 時間や年月日を外国人にもわかる表記にする。
- (9) 動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にする。
- (10) あいまいな表現は避ける。
- (11) 二重否定の表現は避ける。
- (12) 文末表現はなるべく統一する。

1. 「やさしい日本語」には答えがない

- ・人によって、何が「やさしい」かは違う。
- ・たくさんの「やさしさ」を持とう！

2. 元の日本語よりはやさしくできる

- ・100%はない。
- ・少しでも多くの人に伝わることを目指そう！

3. ことば以外にも伝える方法はある

- ・身振り手振り、絵、写真、実物、手話、など。
- ・準備できることはしておこう！

4. いらぬものは引く、いるものは足す

- ・一番伝えたいことをはっきりしよう！
- ・なくても困らないものは思い切って消そう！

◆リーディングチュウ太（日本語読解学習支援システム）


Reading Tutor
Last updated on 2021-03-16.
[English/](#) [German/](#) [Dutch](#)

日本語読解学習支援システム
リーディング チュウ太

文章をいれてボタンを押してください

辞書：

レベル判定： 文型：



入力された文章は研究および学習者用教材開発に利用することがありますので ご承知ください。

文章を入力して、レベル判定「語彙」をクリックすると、ことばのレベルチェックができる。（語句の色が変わる）判定の目安は「日本語能力試験」

級外：非常に難しい語句（赤太字）

N1：幅広い範囲で使われる日本語を理解することができるレベル。（赤字）

N2：日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができるレベル。（青文字）

N3：日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができるレベル。（青文字）

N4：基本的な日本語を理解することができるレベル。（グレー文字）

N5：基本的な日本語をある程度理解することができるレベル。（黒文字）

◆どちらが正しい行動をとれるか？

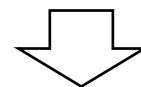
A

- ① 召し上がる
- ② 土足厳禁
- ③ 高台に避難する

B

- ① たべる
- ② くつを めいでください
- ③ たかいところへ にげる

Aは小学校2～3年生でもわからない。



やさしい日本語

◆災害用語の言い換え例

普通の日本語	やさしい日本語
給水車	^{みず} ^{くば} ^{くるま} 水を配る車
迂回する	^{ちが} ^{みち} ^い 違う道を行く
カーラジオ	^{くるま} 車についているラジオ
津波	^{たか} ^{なみ} 高い波
デマ	^{はなし} うその話
避難所	^に 逃げるところ
行方不明者	どこにいるかわからない人 ^{ひと}
渋滞する	^こ 混んでいる
貴重品	^{たいせつ} 大切なもの